

# 市制施行20年記念式典

## 受彰者の横顔

大館市の発展に貢献された、たくさんの市民の中から、表彰選考委員会で審議の結果、自治功労者に佐藤敬治、渡部綱次、佐藤民二郎、築館米三郎、太田部武蔵、菅原一雄、石田徳太郎の各氏、そして教育功労者に佐々木正市、産業功労者に緑川正雄、社会善行者に畠山与市の各氏が選ばれ、式典当日、その功績に対し、石川市長から表彰を受けました。

**佐藤 敬治氏 (50才)**  
水門町4-46



初代大館市長に就任以来、引き続き16年の長きにわたり、鋭意市政を担当され、今日の発展に尽された功績が顕著である。

**渡部 綱次氏 (72才)**  
御成町1丁目10-9



多年にわたり、市議会議長として、市政の伸展に尽された功績が顕著である。

**佐藤民二郎氏 (66才)**  
字長倉21



**築館米三郎氏 (66才)**  
御成町4丁目2-22



**佐々木正市氏 (62才)**  
字桂城57



大館幼稚園長として、多年幼児教育の振興に尽された功績が顕著である。

**太田部武蔵氏 (65才)**  
御成町4丁目7-30



**緑川 正雄氏 (63才)**  
字三の丸8



初代大館商工会議所会頭として、18年余の長きにわたり、市の商工業の発展に尽された功績が顕著である。

**菅原 一雄氏 (61才)**  
松木字松木34



**石田徳太郎氏 (57才)**  
字新町22



**畠山 与市氏 (73才)**  
松峰字松峰44



社会奉仕の念篤く、多年、黙々と道路、水路の清掃や除雪等に尽され、地域の福祉増進に寄与された功績が顕著である。

この五人の方は市制発足以来、引きつづき市議会議員として市政の伸展に尽された功績が顕著である。

## 市長あいさつの要旨

### 和の結集で市勢の発展を

大館市が発足してから、20年を迎えた。思えば、昭和26年4月1日、大館町と釈迦内村がおの町と村を解体し、自治体の強化と振興を期すため一体となり、新しく大館市として発足しました。

当時は、人口の面からみると、市制施行に必要な条件の一つである3万人をわずかに56人超えるという、日本一小さい市であり、県内では秋田、能代、横手市について4番目の市となつたのであります。

以来、今日までの20年間、幼年期、少年期ともいべき時代を、関係諸機関や各界の諸先輩のあたたかいご高庇と全市民のご協力により大きく発展して参りました。すなわち、昭和30年3月には、十二所、上川沿、下川沿、二井田、真中、長木の1町5村と合併、同42年12月には花矢町と合併になり、今や人口78,000人と全国にある564市のうち、184番目に躍進しました。過密、過疎の問題が大きな課題になっている時代ですが、幸い当市は、現在のところ安定地帯と目され、青森、岩手、秋田の3県の中心部ともいえる地の利と、各種資源に恵まれて「発展の可能性あるまち」として、各方面から注目され、期待されている地域でもあります。



大館市長

石川 芳男

したがって、天の時、地の利、人の和という大法則を考え、和の結集に一段と努力をばらい、全市一致の体制ですべてに対処して参りたいと、決意を新たに致しております。

とくに、この機会に内外の方々にお詫びをし、ご厚情に感謝を申しあげ、自らは戒心を致さねばならないことは、火災のことであります。20年間に4回の大火発生ということは、全く弁明の余地がなく、今後は過ちを繰り返しかえさぬことに、一層の努力を傾注したい所存であります。

また、全国一の鉱山地帯の真眸中にある本市としては天恵の未利用資源を開発して、国益にそうことに協力していることは論をまたないところですが、尊い人命および生活を守るための施策を最優先として押し進め、公害防止には、国、県との連絡を密にして援助と協力を求め企業には良識ある防止策の速なる措置を強力に要望して、公害なき環境における企業活動を期待して参りたいと存じております。

私は、わが郷土大館市の伸展のために、先人の偉業を偲び、今日の市制20年記念式典が、よりよき将来建設への飛躍の役割を果してくるであろうことを願望し、いやまないものであります。

## 式典 スナップ



市立第一中学校 プラスバンドによる市民歌の演奏風景



市民歌作曲者、中川康多氏に合唱団員から花たばが贈られた



←市立花岡中学校女子生徒による市民歌の美しい合唱は式典をさらに盛り上げてくれた